



高村智恵子 紙絵「いちご」高村光太郎画賛 昭和12～13年(1937～38)

平成29年

9月15日(金)～
11月27日(月)

開館 午前8時30分 閉館 午後4時30分
会期中無休

高村光太郎記念館

〒025-0037 岩手県花巻市太田3-85-1

☎&FAX 0198-28-3012



光太郎と智恵子 塩原にて 昭和8年(1933)

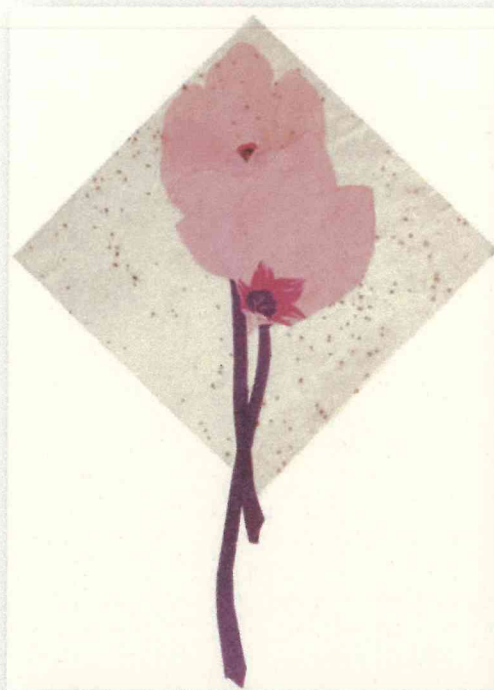
高村光太郎記念館秋期企画展
智恵子の紙絵
智恵子抄の世界

智恵子が憧れてゐた深い自然の真只中に
運命の曲折はわたくしを叩きこんだ。
運命は生きた智恵子を都会に殺し、
都会の子であるわたくしをここに置く。
岩手の山は荒々しく美しくまじりけなく、
わたくしを囲んで仮借しない。

智恵子抄『メトロポール』より



紙絵「くだものかご」



紙絵「シクラメン」



紙絵「兎の餅つき」



紙絵「道具箱」

彫刻家で詩人として知られる高村光太郎。その妻、智恵子は雑誌『青鞥』創刊号の表紙絵を描き、新鋭の画家として注目されるなか光太郎と出会い、結ばれました。結婚後、智恵子は自身の油絵に対する芸術的苦悩や実家の一家離散が重なり、心の病に侵され睡眠薬で自殺を図ります。一命は取りとめたものの長い療養生活に入り、その後回復することではなく、昭和13年に入院先のゼームス坂病院でこの世を去ります。享年数え53歳の生涯でした。

晩年の智恵子は作業療法として身の回りにあった色紙や包装紙など、様々な紙をマニキュア鋏で切りぬき、台紙に貼りつける「切り抜き絵」を多く制作します。それらは光太郎ただ一人に見せるために作られました。後に光太郎は智恵子の遺作となった切り抜き絵を「紙絵」と名づけました。太平洋戦争の空襲で光太郎はアトリエを全焼し自身の作品の多くが焼失しましたが、智恵子の紙絵は花巻など地方へ疎開させていて難を逃れました。

この企画展では智恵子の紙絵のほか、愛の詩集ともいわれる詩集「智恵子抄」に関わる資料などを公開します。展示を通じて、光太郎と智恵子の思いを感じていただければ幸いです。



智恵子展望台リニューアル

詩集「智恵子抄」で詠まれた「案内」の
舞台となった智恵子展望台からの
秋の景色を是非ご覧ください

高村光太郎記念館

〒025-0037 岩手県花巻市太田3-85-1 ☎0198-28-3012

開館 午前8時30分 閉館 午後4時30分 休館日 12月28日～1月3日

高村山荘・高村光太郎記念館 入場料

一般 550円／高校生・学生 400円／小・中学生 300円

※団体入場(20名以上)は上記から一人あたり100円割引